専門演習 安崎 文子

# 授業概要

心理学研究の基礎として,成人・小児の認知面の障害に関する文献の検索,論文の講読とレジュメ作成,発表を行う。その中で,特に興味を持った障害について,いくつか症例を検討し,その障害の機序を考え,訓練方法を考えていく。例として,ワーキングメモリ障害を挙げたが,学生の希望により適宜修正する。訓練課題を作成し,健常者データを収集,解析していく。最終的に結果をだし,レポート作成,発表を行う。一連の研究の流れを学習する。

# 授業計画

p		,	·
第 1 回	ガイダンス,ゼミの進め方の説明	第16回	ワーキングメモリ障害への対応①
第 2 回	発表方法の説明	第17回	ワーキングメモリ障害への対応②
第3回	障害に関する心理学論文の発表①	第18回	ワーキングメモリ障害への対応③
第 4 回	障害に関する心理学論文の発表②	第19回	訓練課題作成①
第 5 回	障害に関する心理学論文の発表③	第20回	訓練課題作成②
第 6 回	障害に関する心理学論文の発表④	第21回	訓練課題作成③
第7回	障害に関する心理学論文の発表⑤	第22回	健常者データ収集①
第 8 回	障害に関する心理学論文の発表⑥	第23回	健常者データ収集②
第 9 回	障害に関する心理学論文の発表⑦	第24回	健常者データ収集③
第10回	障害に関する心理学論文の発表⑧	第25回	データ入力
第11回	障害に関する心理学論文の発表⑨	第26回	データ解析①
第12回	障害に関する心理学論文の発表⑩	第27回	データ解析②
第13回	興味関心を持ったテーマの発表①	第28回	レポートの作成①
第14回	興味関心を持ったテーマの発表②	第29回	レポートの作成②
第15回	興味関心を持ったテーマの発表③	第30回	発表
		第31回	試験はレポートとする

# 到達目標

卒論に向けて、一連の心理学研究の流れを理解する。 興味のある研究分野を絞り、研究を掘り進める。

# 履修上の注意

心理学概論 I • II, 心理学実験・心理学統計法 I, 心理学研究法・障害者心理学・神経心理学を履修していることが望ましい。

### 予習・復習

担当になった文献をしっかり購読して発表に臨む。 発表者の報告や意見で不明な点について、できる限り自身で調べる習慣をつける。

# 評価方法

学習態度 60%, レポート 40%にて総合的に評価する。

# テキスト

教科書は指定しない。

専門演習 伊里 綾子

## 授業概要

まず前半は、心理学の研究手法を用いた論文の収集方法と読み方を学び、各自興味のある文献について発表をしていただきます。また、発表や質疑応答を通じて、様々な心理学の研究手法、分析法について学びます。後半では、文献講読と発表で培った知識をもとに、自身の興味関心のあるテーマについて研究計画を立て、可能な範囲でデータの収集を行い、分析や考察をします。また、その内容について発表・レポート作成を行います。一連の手続きの体験から得られた改善点等を、卒業研究に生かすことができるよう、指導を行います。

# 授業計画

· · · ·		T	
第 1 回	オリエンテーション	第16回	興味関心のあるテーマの発表
第2回	文献・情報検索の方法について①	第17回	研究計画の立て方について
第3回	文献・情報検索の方法について②	第18回	研究の進捗状況の発表
第 4 回	文献講読と発表の方法について	第19回	
第 5 回	文献発表の準備とその添削	第20回	・各回につき 2~3 人ずつ発表
第 6 回	文献発表①	第21回	• 発表内容についてゼミ全体でディスカ
第7回	・各回につき2人ずつ	第22回	ッション
第8回	• 発表と質疑応答	第23回	・研究計画が決定し次第データ収集開始
第9回		第24回	・データ収集を終えた人は分析を実施
第10回		第25回	
第11回	文献発表②	第26回	※各自のペースに合わせて指導を行い
第12回	・各回につき2人ずつ	第27回	ます。文献レビュー、研究計画書、研究
第13回	・ 発表と質疑応答	第28回	レポートのいずれかを学期末に向けて
第14回		第29回	作成します。
第 15 回	春学期のまとめ	第30回	秋学期のまとめ

# 到達月標

- 1. 必要な文献や情報を検索し、入手する方法がわかる。
- 2. 文献のおおまかな内容を理解し、その概要を発表することができる。
- 3. 先行研究を基に、論理的に思考し、自身の興味に関連した研究計画を立案することができる。

### 履修上の注意

- ・授業時間外にも文献講読や発表の準備、データの収集、分析、レポート作成等、様々な準備が必要となります。積極的、主体的に取り組んでください。
- ・研究計画の立案と実行については、研究対象者や調査・実験・解析の方法に制限があるため、実現可能な形に修正していただく場合があります。
- 発表や研究準備の進捗状況に応じて各回の内容が前後する場合があります。

#### 予習•復習

文献収集, 文献講読, 発表準備, 研究計画書作成, データ収集・入力・分析, レポート作成等の予習が必要となります。その方法については適宜指導いたします。

#### 評価万法

授業への取り組み姿勢(40%),発表内容(春学期30%),文献レビューもしくは研究計画の発表(秋学期10%),最終レポートの内容(20%)を総合的に評価します。

#### テキスト

特にありません。参考書等は適宜紹介します。

専門演習 遠藤 寛子

# 授業概要

専門演習では、卒業論文の完成に向けて基礎力を身に付けることを目的とする。すなわち、論文検索、読解、心理学研究法、レポートの書き方、発表の仕方等を学ぶ。また、心理学の視点からあらゆる社会現象を考察することを通して思考力を高める。

春期では共通の研究テーマを選び、そのテーマに関して実際にデータを収集、分析、結果のまとめを体験する。 これにより、研究に必要な基礎知識や方法論を習得する。

秋期では各自関心のある研究論文の検索、読解、その報告発表をする。こうした経験を通して心理学の理論、 心理学研究法、結果のまとめ方、考察について理解を深めていく。

# 授業計画

		·	
第 1 回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	心理学研究法について	第17回	関心ある研究論文の読解 1
第3回	心理学統計法について	第18回	関心ある研究論文の読解 2
第 4 回	文献検索の仕方	第19回	関心ある研究論文の読解3
第5回	テーマ設定・研究計画の立案	第20回	関心ある研究論文の読解 4
第6回	質問紙調査の選定・作成	第21回	関心ある研究論文の読解 5
第7回	質問紙調査の作成・実施	第22回	関心ある研究論文の読解 6
第8回	データ入力	第23回	構想発表 1
第9回	データ分析	第24回	構想発表 2
第10回	データ分析	第25回	構想発表 3
第11回	結果のまとめ方 1	第26回	構想発表 4
第12回	結果のまとめ方 2	第27回	構想発表 5
第13回	考察	第28回	構想発表 6
第14回	報告書の作成	第29回	まとめ・卒論への準備
第15回	まとめ	第30回	まとめ・卒論への準備

### 到達目標

- ・研究計画を立案、実施し、結果をまとめ、考察できる。
- 研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- 社会現象を心理学的視点で議論できる。

### 履修上の注意

- 社会心理学、感情心理学、臨床心理学等の領域で研究を進めたい方。
- 自ら積極的に進めようとする意欲をもって参加すること。

# 予習・復習

授業前には課題学習と発表準備を行い、授業後には疑問点や課題を整理すること。

# 評価方法

授業への参加態度、課題提出、発表の仕方などを総合的に評価する。

## テキスト

必要なし。必要な場合には授業内で紹介する。

専門演習 大川 一郎

# 授業概要

専門演習の目的は、卒業研究を円滑に達成するための心理学的な研究スキルと専門知識を習得することにある。そのための準備として、①各自の疑問や興味に即した文献の検索の方法、②専門的文献の精読とレポート作成、③発表と討論の各作業、などを通して実践的な心理学研究法の習得を目指す。具体的には、春期では共通研究課題として「プロジェクト課題」を設定し、そのテーマに関する基礎文献を精読しながら、専門的知識と方法論について学習する。秋期には春期の学習を踏まえて、各自の興味にそった研究課題を設定し、それを受けての学術の文献の渉猟と査読、その報告などを通して論文中で展開されている理論、研究法、分析手法について理解する。さらに、文献の検索や報告を通してリサーチ・スキルを修得する。

# 授業計画

,			
第 1 回	ガイダンス:進め方の解説と確認	第16回	ガイダンス:秋期課題の確認
第 2 回	各自の関心テーマの発表(1)	第17回	研究テーマの再検討(1)
第3回	各自の関心テーマの発表(2)	第18回	研究テーマの再検討(2)
第 4 回	各自の関心テーマの発表(3)	第19回	文献講読と討議(1)
第5回	プロジェクト・テーマの策定(1)	第20回	文献講読と討議(2)
第 6 回	プロジェクト・テーマの策定(1)	第21回	文献講読と討議(3)
第7回	基礎文献の講読と討議(1)	第22回	文献講読と討議(4)
第 8 回	基礎文献の講読と討議(2)	第23回	文献講読と討議(5)
第 9 回	基礎文献の講読と討議(3)	第24回	文献講読と討議(6)
第10回	基礎文献の講読と討議(4)	第25回	各自の発表資料の作成と討論(1)
第11回	レポート課題の発表と討議(1)	第26回	各自の発表資料の作成と討論(2)
第12回	レポート課題の発表と討議(2)	第27回	各自の発表資料の作成と討論(3)
第13回	レポート課題の発表と討議(3)	第28回	各自の発表資料の作成と討論(4)
第14回	レポート課題の発表と討議(4)	第29回	研究発表会(1)
第15回	前期のまとめ	第30回	研究発表会(2)

### 到達目標

- 1. その基盤となる能力として、文献講読を通しての論理的理解能力と科学的な批判的思考の習得を目指す。
- 2. 自分の興味・関心に沿ったテーマについて、自分で研究計画を立案、実施し、その成果のプレゼンテーションを踏まえてレポート論文にまとめ上げることができる。

#### 履修上の注意

- 1. 病気、怪我等の特別な事情がない限り、毎回出席を義務づける。病気等の場合は、診断書の提出を求める。 理由なく 5 回以上の欠席の場合、単位は認定しない。
- 2. 授業参加と発表状況およびレポートの完成度が基準に満たない場合は再提出、追加課題の実施あるいは再履修を求められる。

# 予習・復習

- 1. 各自の関心に沿って課題を設定・研究を実施する。また、事前に文献を読み、演習での発表レポートを準備する。
- 2. 文献の講読、吟味、分析を行い、一定の結論を導き出し、レポートを作成・提出する。そのため、授業以外の自主的学習が必要となる。

#### 評価方法

1. 自分の興味・関心に沿ったテーマについて研究計画を立案し、論理的なレポートが作成できること。

# テキスト

事前に指定する図書はない。課題に応じて参考文献、査読論文等を紹介する。

専門演習 川久保 惇

## 授業概要

専門演習では、卒業論文の作成に必要な研究スキルと専門知識を習得することを目指す。具体的には、「心理学論文の精読とレポート作成」と「ゼミ内発表と討論」を繰り返すことで心理学の研究法を学習する。

春学期は、心理学論文を読みながら心理学研究についての基礎を復習する。教員が選定した論文から最も関心のある論文を1つ選び、各学生がその論文についてまとめ、持ち回りでプレゼンテーションを行う。秋学期は、興味のあるテーマや論文の構想を全員に発表する。ゼミ内での議論を通じて各学生の卒業論文構想がより明確化することを目指す。また、ゼミ内でグループを作成し質問紙作成から、データ収集、分析と結果の記述という一連の作業を行い、論文作成について体験的に学ぶ。

## 授業計画

·			7
第 1 回	ゼミの進め方の説明	第16回	関心あるテーマの整理
第2回	発表の仕方の説明と発表担当者の決定	第17回	調査テーマの決定と仮説検討
第 3 回	各ゼミ生の発表 1	第18回	質問紙の作成 1
第 4 回	各ゼミ生の発表 2	第19回	質問紙の作成 2
第5回	各ゼミ生の発表3	第20回	調査の実施
第 6 回	各ゼミ生の発表 4	第21回	データ入力
第7回	各ゼミ生の発表 5	第22回	データ解析
第 8 回	各ゼミ生の発表 6	第23回	レポートの作成 1
第9回	各ゼミ生の発表7	第24回	レポートの作成 2
第10回	各ゼミ生の発表8	第25回	各自発表:卒論構想発表1
第11回	各ゼミ生の発表9	第26回	各自発表:卒論構想発表 2
第12回	各ゼミ生の発表 10	第27回	各自発表:卒論構想発表3
第13回	各ゼミ生の発表 11	第28回	各自発表:卒論構想発表 4
第14回	発表の振り返りとまとめ 1	第29回	各自発表:卒論構想発表 5
第15回	発表の振り返りとまとめ 2	第30回	各自発表:卒論構想発表 6
		第31回	各自発表:卒論構想発表了

### 到達目標

- 自分に興味・関心のあるテーマの文献、資料を収集することができること。
- 発表レポートを作成することができること。
- 他の受講生の発表に対して、自分の意見をきちんと表明できること。
- 卒業研究として実行可能な研究を立案できること。

#### 履修上の注意

専門演習は学生主体で行われるため、無断欠席をした場合他の受講生の迷惑になる。そのため、病気、怪我等の特別な事情がない限り、毎回の出席が求められる。秋以降はグループでの発表や活動があるため、協働的な姿勢で参加して欲しい。

心理学の文献購読を進める際に、心理統計と研究法に関する基本的知識が必要になる。そのため、「心理学研究法」、「調査研究法」、「心理学統計法I」、「心理学統計法I」、「心理統計演習」などは履修済、もしくは今後履修することが望ましい。

## 予習・復習

- 授業、発表準備に時間をかけること。
- 論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成した レジュメによって復習をすること。

# 評価方法

各自の発表内容(60%)と授業への取り組み(発表質問・意見・感想など、40%)として総合的に評価する。

#### テキスト

- 必要に応じて資料は配布する。
- 参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示する。

専門演習 佐々木 美恵

## 授業概要

臨床心理学領域での研究課題に基づいた卒業論文を作成するために必要な一連の知識,方法論について指導する。前半は、研究課題の明確化を図るために、各自の興味・関心に基づいて文献研究と結果整理を行ってもらったうえで、さらに考えを深めるためのディスカッションを行う。後半は、実証的研究の方法論を学ぶために、グループごとに演習用調査を実施し、データ解析演習を行う。

# 授業計画

	<前期>		<後期>
第 1 回	オリエンテーション	第1回	
第 2 回	_	第 2 回	データ解析演習①   (質問紙の作成と調査実施)
第 3 回	研究課題の明確化① (アイディアの具体化)	第 3 回	
第 4 回		第 4 回	データ解析演習②
第5回		第5回	(データの基礎的処理)
第6回	研究課題の明確化② (文献研究と討論)	第6回	データ解析演習③
第7回		第7回	(因子分析、尺度の整理)
第 8 回	_	第 8 回	データ解析演習④
第 9 回	研究課題の明確化③   (文献研究の継続と討論)	第 9 回	(相関分析, t 検定)
第10回	ريانان د يا ٢٠٠٥ تا ١٠٠٥ تا	第10回	データ解析演習⑤
第11回		第11回	(分散分析,カイ二乗検定)
第12回	研究課題の明確化④	第12回	データ解析演習⑥ (重回帰分析)
第13回	(文献研究の継続と総合的討論)	第13回	データ解析演習⑦ (研究発表会準備)
第14回	研究課題についてのまとめ発表	第14回	データ解析演習8
第15回	(パワーポイントによるプレゼンテーシ ョンと討論)	第 15 回	(研究発表会)

# 到達目標

- 1. 研究課題が明確になっている。
- 2. 調査研究を実施するための一定の知識と倫理が身についている。

# 履修上の注意

自ら主体的, 積極的に取り組むこと。

# 予習・復習

予習:疑問点・討論点を整理する。

復習:授業内での指導を踏まえた振り返りと作業の進行

# 評価方法

授業参加態度(主体性,意欲)50%,研究課題まとめ発表の到達度25%,データ解析演習研究発表の到達度25%によって評価する。

# テキスト

使用しない。必要な文献は適宜紹介する。

専門演習 佐藤 洋輔

# 授業概要

専門演習では、卒業論文の執筆に向けて研究論文や資料の集め方、研究計画の立て方、分析方法、発表の仕方などについての基礎力を身につけることを目的とします。

春学期では、文献の調べ方や心理学研究の進め方について学んだ後、興味のある研究論文を選んで各自発表を行い、分析方法や研究発表の仕方について知識を深めます。

秋学期では、それぞれ興味があるテーマについて実際に研究計画を立て、データの収集、分析、結果発表を行い研究の一連の流れを体験してもらいます。こうした経験を通じて、自分の興味・関心を心理学研究として実現するための知識・能力を習得できることを目指します。

## 授業計画

		T	
第 1 回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第 2 回	発表の仕方の説明と発表担当者の決定	第17回	研究デザインの立て方について
第3回	テーマ設定と文献検索の仕方	第18回	研究計画の検討と決定1
第 4 回	文献の検索と発表の準備・添削1	第19回	研究計画の検討と決定2
第5回	文献の検索と発表の準備・添削2	第20回	データの収集1
第6回		第21回	データの収集2
第7回	文献発表	第22回	データ分析 1
第 8 回	・各回1~2人ずつ発表	第23回	データ分析2
第 9 回	<ul><li>・ 各回 「~ 2人9 J 元衣</li><li>・ 発表についての質疑応答や</li></ul>	第24回	結果のまとめ
第10回	ディスカッション、分析方法の解説	第25回	発表準備1
第11回		第26回	発表準備2
第12回		第27回	結果発表会
第13回	発表の振り返りと秋学期の研究構想	第28回	• 結果の発表と質疑応答,
第14回	研究構想の発表(グループワーク)	第29回	卒業論文の構想
第15回	春学期のまとめと秋学期への準備	第30回	秋学期のまとめと卒論への準備

### 到達目標

- ・興味・関心のあるテーマの文献や資料を集めることができる。
- ・文献や資料の内容を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
- 聞き手がわかりやすい発表や、レポート作成を行うことができる。
- ・先行研究に基づき、興味・関心のあるテーマについて研究計画を立案することができる。

#### 履修上の注意

- ・授業の時間外も含め、積極的・主体的に授業や研究に取り組んでください。
- 発表会での質疑応答やグループワークでの活動など,積極的に発言し,仲間と協力する姿勢が求められます。

#### 予習•復習

- ・文献検索やデータ収集、データ分析、レポート作成、発表準備など授業時間外での取り組みが必要となります。
- ・分析の方法や結果のまとめ方、心理学研究の進め方について発表のレジュメなどを用いて復習してください。

#### 評価方法

授業(ディスカッション等)への参加度(30%),発表内容(30%),発表についてのレポート(40%)によって総合的に評価します。

## テキスト

特に指定しません。必要に応じて、資料などを配布します。

専門演習 泉水 紀彦

# 授業概要

専門演習では、心理学研究および卒業論文の基礎力(論文を読み、理解する力、実験・調査を実施する力)を身につけていくことを目的とします。

春学期・秋学期を通して、一つの研究テーマについて調査もしくは実験研究を実施します。全体で研究テーマを選定し、先行研究を検索して、一人 1 つの文献について発表してもらいます。その後、研究の目的の設定、質問紙の作成・印刷を行い、データ収集、分析、報告書へのまとめという一連の作業を学生各自が行い、心理学論文の作成について学びます。実際に、調査の計画から実施、分析、論文執筆を体験することで、4 年生の演習につなげていきます。

# 授業計画

,		,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
第 1 回	オリエンテーション	第16回	調査依頼
第2回	心理学研究の流れ	第17回	質問紙作成
第3回	テーマの設定	第18回	調査依頼
第 4 回	文献検索	第19回	調査実施
第5回	研究論文の読み方(調査研究)	第20回	コーディング,データ入力
第 6 回	発表担当の振り分け	第21回	データ分析
第7回	論文発表 1	第22回	データ分析
第8回	論文発表 2	第23回	結果の読み取りと図表作成
第9回	論文発表 3	第24回	方法の文章化
第10回	論文発表 4	第25回	結果の文章化
第11回	研究計画の立案	第26回	考察の文章化
第12回	研究手続きの検討	第27回	問題と目的の文章化
第13回	尺度の検討	第28回	論文の校正
第14回	質問紙作成	第29回	論文提出
第 15 回	春学期のまとめ	第30回	卒業論文に向けて
		第31回	まとめ

### 到達目標

- 心理学研究の計画実施および卒業論文執筆に必要とされる技能を習得すること
- 自分自身の興味がある心理学的現象について理解を深めること

### 履修上の注意

- ・心理学の分野の中でも、パーソナリティ心理学、臨床心理学等の領域で卒業論文執筆を希望する方。
- ・積極的・主体的に授業および調査研究に参加する姿勢をもつこと。
- グループでの発表や活動があるため、協働的な姿勢で参加すること。

### 予習・復習

授業内容の特性上、発表レジュメ作成、質問紙配布、データ分析、報告書執筆等があるため、授業時間外での活動があります。

#### 評価方法

授業への参加度、報告書の提出(春学期)発表などの演習課題(秋学期)の達成度をもとに総合的に判断します。

### テキスト

特になし。必要があれば、授業内で別途指示します。

専門演習 羽鳥 健司

## 授業概要

心理学に関連するテーマ(特に臨床心理学・健康心理学・ポジティブ心理学・カウンセリング分野)で卒業論文を作成しようと考えている学生が対象です。この授業では、卒業論文の作成に必要な技術を学習します。 具体的には、春期では関心のある先行研究の要約の発表や追試等、秋期では各自が関心のテーマの発表や構想発表等を行う予定です。

# 授業計画

第 1 回 ガイダンス(発表順の決定等) 第 16回 春季のレポートの返却やガイダンス等 第 2 回 教員のテーマ紹介とレジュメの作り方 第 17回 第 3 回 文献の検索方法 第 18回 第 19回 第 5 回 (1回に2人の発表と質疑応答) 第 20回 第 6 回 第 21回 第 22回 第 8 回 前回の発表で指摘された点を改善・ 第 23回 第 9 回 発展させた各自の担当文献の発表 第 24回 第 10回 (1回に2人の発表と質疑応答) 第 25回 名自の構想発表 第 24回 第 25回 名自の構想発表 第 25回 名自の構想 第 25回 名目の表情 25回
第3回 第4回 第5回 第5回 第6回 第7回文献の検索方法 各自が関心のある文献の発表 (1回に2人の発表と質疑応答)第19回 第20回 第21回 第22回 第22回 第22回 第22回 第23回 第3回 第9回 第9回 第10回第10回第18回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回第9回 第10回前回の発表で指摘された点を改善・ 発展させた各自の担当文献の発表 (1回に2人の発表と質疑応答)第24回 第24回第10回第10回各自の構想発表
第 4 回   各自が関心のある文献の発表   第 19 回     第 5 回   (1回に2人の発表と質疑応答)   第 20 回     第 6 回   第 21 回   各自のテーマ発表     第 7 回   第 22 回   (1回に2人の発表と質疑応答)     第 8 回   前回の発表で指摘された点を改善・ 発展させた各自の担当文献の発表   第 23 回     第 10 回   (1回に2人の発表と質疑応答)   第 24 回     第 10 回   第 25 回   各自の構想発表
第5回   (1回に2人の発表と質疑応答)   第20回     第6回   第21回   各自のテーマ発表     第7回   第22回   (1回に2人の発表と質疑応答)     第8回   前回の発表で指摘された点を改善・第23回   第24回     第9回   発展させた各自の担当文献の発表   第24回     第10回   (1回に2人の発表と質疑応答)   第25回     各自の構想発表
第6回   第21回   各自のテーマ発表     第7回   第22回   (1回に2人の発表と質疑応答)     第8回   前回の発表で指摘された点を改善・第23回   第24回     第9回   発展させた各自の担当文献の発表 第24回   第25回   各自の構想発表
第7回第22回(1回に2人の発表と質疑応答)第8回前回の発表で指摘された点を改善・第23回第24回第9回発展させた各自の担当文献の発表第24回第10回(1回に2人の発表と質疑応答)第25回各自の構想発表
第8回 前回の発表で指摘された点を改善・第23回   第9回 発展させた各自の担当文献の発表 第24回   第10回 (1回に2人の発表と質疑応答) 第25回 各自の構想発表
第 9 回 第 10 回発展させた各自の担当文献の発表 (1回に2人の発表と質疑応答)第 24 回 第 25 回
第 10 回 (1 回に2人の発表と質疑応答) 第 25 回 各自の構想発表
30.10.01
数 44 日
第 11 回
第12回 前回および前々回の発表で指摘され 第27回 (1回に2人の発表と質疑応答)
第 13 回 た点を改善・発展させた各自の担当文 第 28 回
第 14 回 献の発表 第 29 回 まとめと卒論への橋渡し
第 15 回 (1 回に2人の発表と質疑応答) 第30回

## 到達目標

心理学の卒業論文を作成するために必要な基礎的な技術を身につけることを目標とします。

#### 履修上の注意

- ・心理学研究法 I と心理学研究法 I を履修済みであることが望ましいです。また、心理学の実習系の授業(心理学実験 I ・ II、フィールドワーク I ・ II、社会調査実習 I ・ II)のいずれか 1 組を受講しておくことが望ましいです。
- ・発表担当の週に無断欠席をした場合は、評価の対象から除外します。欠席や遅刻の扱い方は第 1 回の授業で行うので、必ず出席してください。

### 予習復習

各ゼミ生の進捗状況に合わせて、次回の発表までに用意しておく資料や準備しておくレジュメ等を指示するので、 指示を守ってください。指示を守れない場合、卒業研究の作成に支障を来す場合があるので自覚しておいてください。

#### 評価方法

授業への参加態度、発表時のレジュメ、発表の仕方、レポートの内容などを総合的に評価します。

#### テキスト

学生が作成したレジュメを使用するため、テキストは指定しません。

専門演習 藤枝 静暁

# 授業概要

- ・子どもに関連することがテーマです。特に、教育(いじめ、不登校、学級崩壊、小1プロブレム,中1ギャップなど)、保育(特別支援、保護者の子育て不安など)、福祉(虐待予防,家庭環境,介護など)。
- ・興味関心を広げるために、世の中の事象や時事問題についての情報を収集し、議論し、理解を深めます。

# 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	論文・資料の集め方1	第17回	より詳細な論文、資料の集め方1
第3回	論文・資料の集め方2	第18回	より詳細な論文、資料の集め方2
第4回	論文・資料の集め方3	第19回	論文・資料の読み解き方1
第5回	論文・資料の読み方1	第20回	論文・資料の読み解き方2
第6回	論文・資料の読み方2	第21回	論文・資料の読み解き方3
第7回	論文・資料の読み方3	第22回	各自発表:卒論準備進捗状況報告1
第8回	発表資料の作成1	第23回	各自発表:卒論準備進捗状況報告2
第9回	発表資料の作成2	第24回	各自発表:卒論準備進捗状況報告3
第10回	発表資料の作成3	第25回	各自発表:卒論準備進捗状況報告4
第11回	中間発表 1	第26回	各自発表:卒論準備進捗状況報告5
第12回	中間発表2	第27回	各自発表:卒論準備進捗状況報告6
第13回	中間発表3	第28回	各自発表:卒論準備進捗状況報告7
第14回	中間発表4	第29回	成長点と課題の明確化1
第15回	まとめ	第30回	成長点と課題の明確化2
		第31回	まとめ

# 到達目標

- 自分の興味関心があるテーマに関連する文献や資料を収集する力をつける。
- 文献や資料を繰り返し読み、内容を理解する。
- ・興味のあるフィールドへ出向き、自分の目で観察し、理解する。
- 聞き手が分かるようなレジュメ、レポートを作成する力をつける。

## 履修上の注意

- ・演習は学生が主体的に学ぶ場所です。毎回, 出席すること。
- ・心理学概論、心理学研究法、心理統計法、心理学実験、発達心理学を履修済み、教育心理学(履修中、履修予定)であること。

# 予習・復習

- ・ 演習の準備に時間をかけること。
- 大学図書館を利用して、資料を探し、集めること。
- •毎日,新聞・ニュースを見る習慣をつけて,社会の様子・出来事に関心を持つこと。

### 評価方法

欠席は厳禁です。遅刻3回は、1回の欠席として扱います。

レジュメの内容(40%)、発表質問・意見・感想(40%)などの発言頻度、まとめの内容(20%)として総合的に評価します。

# テキスト

最初の授業で学生と話し合い、決める予定です。参考書については、必要に応じて授業の中で紹介していきます。

専門演習 古澤 照幸

# 授業概要

前半は、心理学の論文や資料をどのように集めるか心理学の論文やレポート、資料の集め方をどのようにしたらよいかの講義を行う。論文や資料を読み、各回で発表者をたて、発表してもらい、議論をする。これにより、実際の研究に触れ、研究の進め方を実感してもらう。もちろん、このことで新しい心理学における新しい知識も吸収する。 ただし、学生の皆さんに困難なことを求めるのではない。現状の実力に合った、ちょうどよい資料を確認してもらうようにする。

後半では、質問紙調査を作成し、調査を実施し、解析をし、結果を出し、レポートの作成(または発表)をすることによって研究の手順を体感してもらう。 これらを行うことによって、卒論作成時に困らなくなることを目指す。4年次に困らないために、つらくならないために、力をつけていきましょう。

# 授業計画

·	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
第 1 回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第 2 回	論文、資料の収集法1	第17回	論文、資料の収集法3
第3回	論文、資料の収集法2	第18回	発表6(古澤発表)
第 4 回	資料の収集1	第19回	発表7(学生の発表)
第5回	資料の収集2(文献検索を行う)	第20回	発表8(学生の発表)
第 6 回	発表1(ゼミ教員による発表)	第21回	質問紙の作成法1
第7回	発表用資料の作成方法1	第22回	質問紙の作成法2
第 8 回	発表用資料の作成方法2	第23回	質問紙の作成法3
第 9 回	発表用資料の作成方法3	第24回	質問紙の作成(実際に作成をしてみる)
第10回	発表2(古澤発表)と議論	第25回	調査の実施
第11回	発表3(学生の発表)、議論と講評	第26回	データ入力、データクリーニング
第12回	発表 4(学生の発表)、議論と講評	第27回	データ解析(基礎的な解析)
第13回	発表 5(古澤発表)と議論	第28回	結果のまとめ
第14回	発表の振り返り	第29回	レポートの提出
第15回	全体のまとめと議論	第30回	卒論へ向けて
		第31回	全体のまとめと議論

#### 到達目標

基礎的な調査であれば、独力でテーマ決定から、レポート作成、発表までの調査のすべての過程を実行で きることを目標とする。

# 履修上の注意

原則として、「心理学研究法」を履修していることが必要である。これら科目に合格 していない場合、ゼミにおける学習も厳しくなる可能性があるので、その点は認識しておいてほしい。 また、「心理学実験」「フィールドワーク」「社会調査実習」のうちどれか1科目は履修を することがゼミにおける学習上必要となる。

### 予習•復習

予習復習 論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成した レジュメによって復習をすることが望ましい。

#### 評価方法

発表の仕方を含む授業の参加性(60%)およびレポート(40%)によって評価を行う。

### テキスト

毎回、A4 の資料 1、2 枚程度を授業テキストとして配布する。復習がしっかりできるように授業テキスト は構成する。

専門演習 米村 朋子

## 授業概要

本演習は、知覚心理学・認知心理学・生理心理学などの基礎領域に関するテーマで実験的研究を行うための研究スキルと専門知識を習得することを目的としています。わたしたちの心の基礎機能である知覚・認知特性の不思議さ、面白さに触れ、そのメカニズムを実験で明らかにする研究方法を体験していただきます。前半は、最新の文献(研究論文)を読んで紹介(発表)することで、研究知見の共有・議論により知識を増やします。後半は、グループ(もしくは個別)で研究課題を設定し、研究課題の決定、先行研究検索から実験計画、実験実施から発表までの全ての研究過程を実践することで、研究スキルを身に付けます。

# 授業計画

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
第1回	ガイダンス:演習の進め方	第 16 回	ガイダンス:秋学期の課題確認
第2回	研究テーマ選択	第17回	研究テーマの再選択と先行研究調査
第3回	関心のある研究テーマの文献検索	第18回	研究計画:仮設構築と実験計画
第 4 回	文献講読および発表の方法	第19回	切え計画・収改構業と夫談計画
第5回		第20回	実験準備
第 6 回		第21回	· 天歌华朋
第7回		第22回	
第 8 回		第23回	実験実施
第 9 回	文献紹介:個別発表と議論	第24回	
第10回		第25回	データ解析
第11回		第26回	結果の考察
第12回		第27回	発表準備
第13回		第28回	<b>光衣竿</b> 網
第14回	研究テーマの再検討	第29回	研究発表会
第15回	まとめ:秋学期へ向けた準備	第30回	· 斯九光衣云
		第31回	まとめ:卒論へ向けた準備

### 到達目標

- ・実験研究の遂行に必要な文献検索および論理的理解能力と科学的・批判的思考を身に付ける。
- ・自身の興味関心に沿ったテーマについて、研究計画を立案、実施し、その成果を報告することができるスキルを身に付ける。

## 履修上の注意

- 遅刻 欠席はしないこと。授業での課題や討論に積極的に取り組むこと。
- ・調査系ではなく実験系の研究法を用いた卒業研究を行いたいと考えている学生さん向けの演習です。
- ・研究法や統計法,心理学実験などの必修科目と,知覚心理学や認知心理学,神経生理心理学などの基礎科目の単位取得者を対象とする。履修済みでない場合は,今期に履修してください。

## 予習•復習

- 予習として、研究法や統計法、心理学実験などの必修科目と、知覚心理学や認知心理学、神経生理心理学などの基礎科目の内容を理解しておくこと。また、文献紹介や研究進捗報告のための準備のために、授業以外の自主学修が必須である。
- 復習として毎回の資料と課題を振り返ること。

#### 評価方法

授業への参加態度(40%)と発表内容(60%)から総合的に評価する。

#### テキスト

テキストは指定しない。授業内で、参考書など必要な資料を適宜紹介します。